

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2017年 第8週 (2/20-2/26) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		8週	7週	6週	5週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	5	5
インフルエンザ*		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数  
「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千		葉		市		千葉県
		注意報	2/20-2/26	2/13-2/19	2/6-2/12	1/30-2/5	2/13-2/19	
			8週	7週	6週	5週	7週	
小児科	RSウイルス感染症		1	3	6	4	13	
	咽頭結膜熱		2	2	4	2	30	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		43	38	42	41	546	
	感染性胃腸炎		113	126	92	88	674	
	水痘		11	7	4	5	45	
	手足口病		0	1	0	2	6	
	伝染性紅斑		1	3	2	4	12	
	突発性発しん		8	7	10	9	48	
	百日咳		0	0	0	1	1	
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	1	
	流行性耳下腺炎		2	3	4	4	41	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	★↓	441	712	690	1,052	5,809	
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0	
	流行性角結膜炎	○	6	4	0	0	25	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0	
	無菌性髄膜炎		2	0	0	0	2	
	マイコプラズマ肺炎		2	0	2	0	3	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(10件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	結核	女性	70歳代	画像診断等
結核	男性	60歳代	画像診断等	結核	女性	90歳代	病原体等の検出等
結核	男性	70歳代	病原体の検出	急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	男性	90歳代	病原体遺伝子の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	女性	70歳代	病原体の検出	梅毒	男性	60歳代	血清抗体の検出

・第8週は、結核7件(39)、急性脳炎2件(3)、梅毒1件(7)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

### 定点当たり報告数 第8週のコメント

<インフルエンザ>前週より減少し15.75となった。流行発生警報終息基準値を上回ったまま。過去10年の同時期と比べると少なめ。

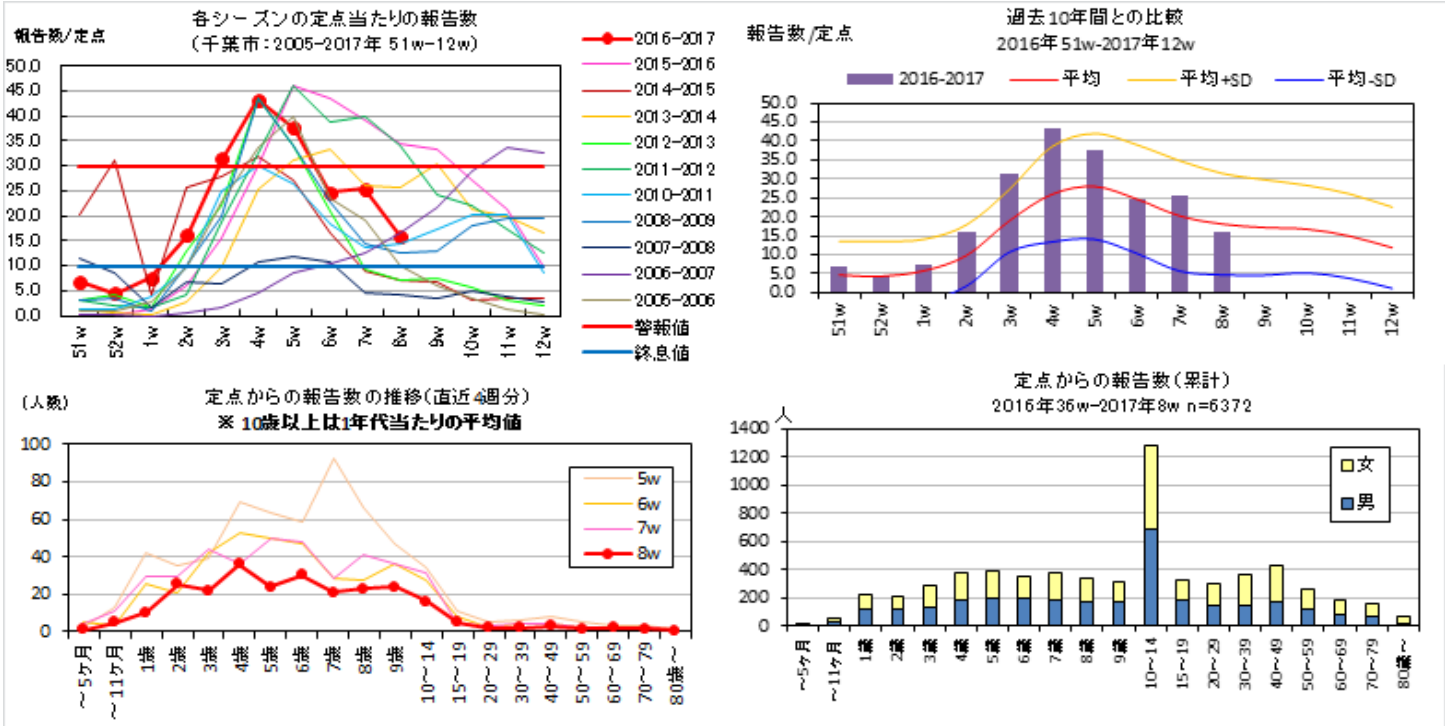
<流行性角結膜炎>前週より増加し1.20となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

全国レベルの2017年第7週は、前週より減少していますが、流行発生警報終息基準値(10.0/定点)は上回ったままとなっています。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、鹿児島県、石川県、長崎県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2017年第8週は、前週より減少し15.75となりましたが、流行発生警報終息基準値を上回ったままです。過去10年の同時期と比べると少なめとなりました。区別の発生状況は、中央区(22.0/定点)で流行発生警報終息基準値を上回り最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代あたりでは4歳で最も多く発生報告がありました。この他、緑区(19.0/定点)、稲毛区(18.3/定点)及び若葉区(17.5/定点)で流行発生警報終息基準値を上回っています。今シーズンである2016年第36週から2017年第8週までの累積報告数(n=6372)によると、性別では男性が49.4%(3145名)、女性が50.6%(3227名)で、一年代当たりの年齢階級別では5歳(6.1%:387名)、7歳(6.0%:384名)、4歳(5.9%:379名)の順に多くっており、20歳未満は全体の72.1%、10歳未満は全体の46.7%となっています。

※2009-2010年のパンデミックは割愛しています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの2017年第7週は、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、宮崎県、鳥取県、神奈川県に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2017年第7週は、前週より増加し1.20となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、若葉区(5.0/定点)で最多で、同区の30歳代で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から2017年第8週までの累積報告数(n=21)によると、性別では男性が57.1%(12名)、女性が42.9%(9名)で、年齢階級別では30歳代(33.3%:7名)、40歳代及び50歳代(共に14.3%:3名)の順に多くとなっています。

